

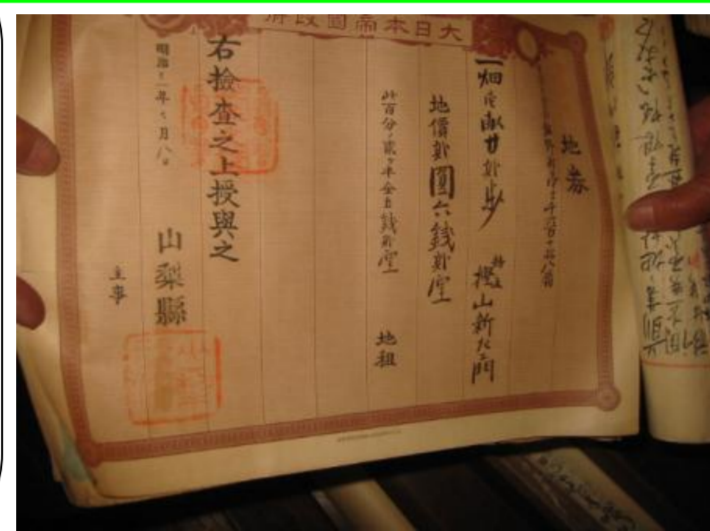
強い。 村松正次郎は、兄五代目勝格弥(健齋の長男として勝家に養子に入る)の医業を通しての社会活動(自由民権運動)の



『清吟書屋』を2階に増築し、葉草の甘草場、漢詩サロンの舞台(吟実務型寺子屋、養蚕温暖飼育、蚕の病理実験・研究に使用か?)



臨床応用硯北日誌 (上)『五代目勝格弥家太郎公』道・健齋の長男(書き始め)。



秋雪書画 (村松家瑠璃の間模倣)

秋雪冬日併題・扁額(村松家収蔵品)



広縁 壁は鼠色の繊維壁塗り



梶の葉文様(村松家家紋)



紺碧の間『脇座敷』(瑠璃色の静寂、清らかな間)ラピスラズリ壁塗り仕上げ



瑠璃鳥(釘隠し、銀色地)



黄金の(極楽浄土)

橋の実(釘隠し、黄金色に輝く)

五代目勝格弥(琢太郎嘉永4年1851~明治40年1907)村松健齋の長子。

村松健齋*空間の質の形成:外庭→内庭(中潜り門)→外部との結界として縁(梶の葉パ)間(ラピスの青)→絶対なる極楽浄土の金色の間。求心的な階層空間(space-hierarchy)の



村松正次郎・雙桂精舎塾・島田篁村(重礼)にて漢学を修行(村松家収蔵品写真)

*村松正次郎十五歳東京下谷録辨町九番地住む・雙桂精舎塾・島田篁村(重礼)にて漢学を修行(村松家収蔵品写真)



*三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。

*三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。

二月十五日西南戦争 勃発(西郷隆盛軍* 官軍司令官一谷干城、熊本県令富岡敬明)

貸付商會(銀行・本社) 沢村松健齋と名取善十郎起す

*秋雪書画(村松家瑠璃の間模倣) 十二月十六日付医師村松健齋手書き死亡診断書。村松家収蔵品。十二月十六日付医師村松健齋手書き死亡診断書。

三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。

三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。

三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。

*島田篁村(重礼)教授になり雙桂精舎塾を閉鎖。勝家、四代目勝格弥(雙桂精舎塾)も島田篁村に師事する。正次郎塾生たちとの写真、住所録記す。正次郎塾生たちとの写真、住所録記す。

三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。

三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。

三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。

*山梨県下コレラ大流行。三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。

三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。

三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。

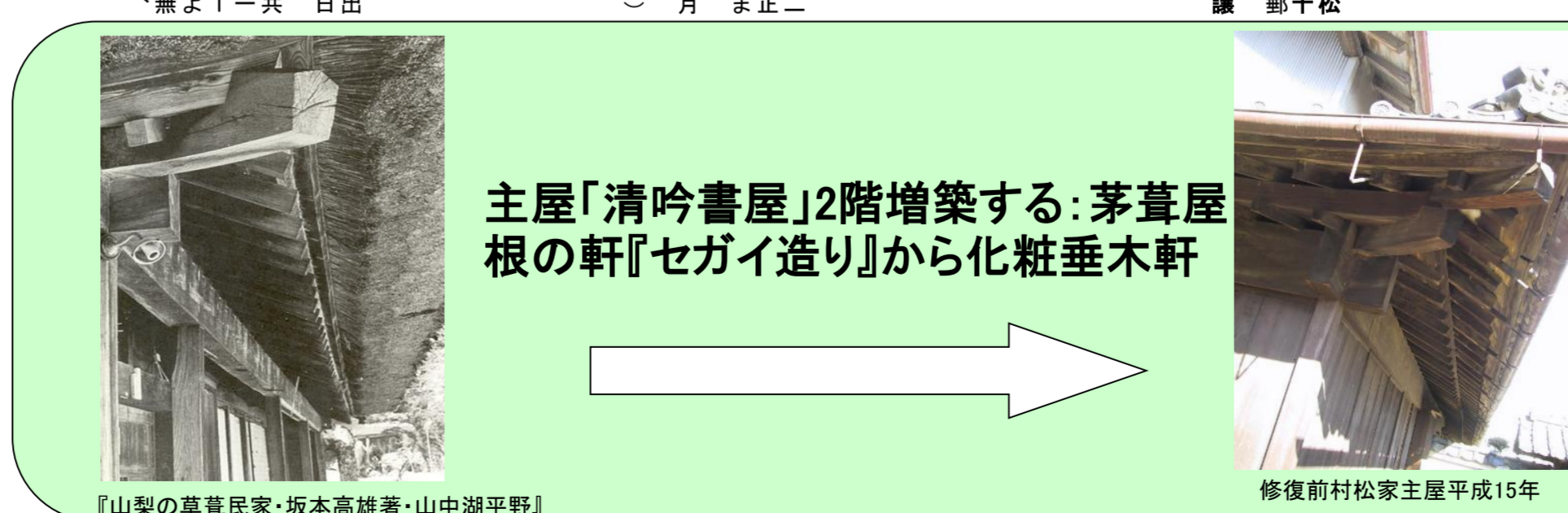
三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。

*北里三郎 東京大学医学部卒業。三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。

三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。

三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。

三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。三月十日板垣退助入塾。



主屋「清吟書屋」2階増築する:茅葺屋根の軒『セガイ造り』から化粧垂木軒

修復前村松家主屋平成15年

『山梨の草葺民家・坂本高越著・山中湖平野』

村松重雄は五代勝格弥(孫太郎・健齋の長子、勝家に養子)、伯父勝謹爾(4代勝格弥の嗣子・健齋さんの弟)、父正次郎の精神的な遺産を引き継ぎ、重雄独自の世界を開いていく。社会運動家加藤シズエ(女性の参政権など)、石本男爵(三井三池炭鉱労働改革)夫妻に共鳴し大同洋行(神田神保町)を設立した。大正13年1924「労働内閣まで」澤田謙著を出版し、また医家である家系を継ぎインターナショナル出版した。先代たちの社会活動を背負い、それを乗り越える国内外へ視点を広げて、洋書翻訳出版業を企業化した。大同洋行はデモクラシーの流れと治安維持法の狭間で、戦前の激動期に入り、社会性を独自の美意識として大同洋行食堂部「レストラン・メッチェン」に変えて、世のインテリたちの愉しめる場として記憶に遺していった。美味しいアイスクリームは今でも忘れられない思い出として遺る。

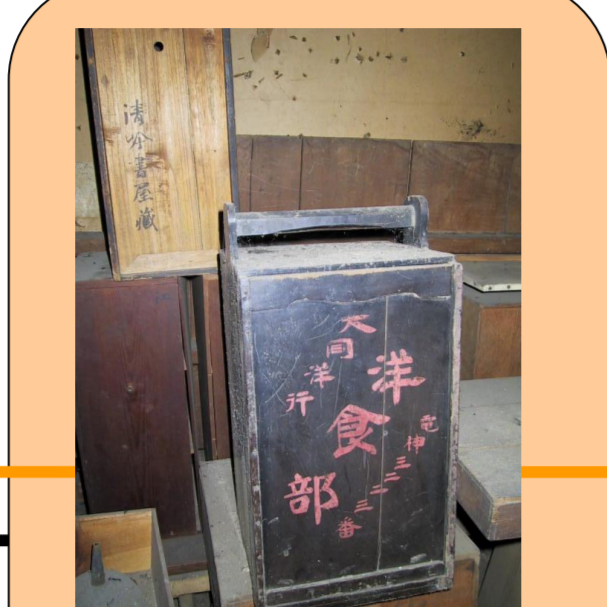
大正十二年 昭和十九年
大正十三年 昭和十八年
大正十四年 昭和十七年
大正十五年 昭和十六年
大昭和元年 昭和十五年
昭和二年 昭和十四年
昭和三年 昭和十三年
昭和四年 昭和十二年
昭和五年 昭和十一年
昭和六年 昭和十年
昭和七年 昭和九年
昭和八年 昭和八年
昭和九年 昭和七年
昭和十年 昭和六年
昭和十一年 昭和五年
昭和十二年 昭和四年
昭和十三年 昭和三年
昭和十四年 昭和二年
昭和十五年 昭和元年
大正十二年 1923
大正十三年 1924
大正十四年 1925
大正十五年 1926
昭和二年 1927
昭和三年 1928
昭和四年 1929
昭和五年 1930
昭和六年 1931
昭和七年 1932
昭和八年 1933
昭和九年 1934
昭和十年 1935
昭和十一年 1936
昭和十二年 1937
昭和十三年 1938
昭和十四年 1939
昭和十五年 1940
昭和十六年 1941
昭和十七年 1942
昭和十八年 1943
昭和十九年 1944

村松重雄の時代(明治29年1895 3月 日～昭和49年1974 1月27日)は、若き頃父正次郎、叔父勝謹爾に影響を受け、病理学の洋書の翻訳出版や社会運動家加藤シズエ、石本男爵夫妻との交友から、大正デモクラシー(民主化)の中、社会的な活動に目覚め、国際的な視点をもって医業や労働問題、女性解放等の知識人との誘いを受け、大同洋行(翻訳出版)会社を設立し、その後昭和4年に大同洋行食堂部「レストラン・メッチェン」を経営し、若き詩人、知識人やロマンチストの集まる場所として提供した。治安維持が高まり特高(特別高等警察)に電蓄を没収されたりし閉店となる。戦

大同洋行出版
(ルイ・パストール / 佐藤俊三編)
版3版
出版者 札幌 札幌堂書房
出版年 東京 大同洋行書籍部
大きさ 1923 160p、図版3
別冊名 ST:Louis
P a s t e u r

大同洋行出版
労働内閣まで
大同洋行出版部函背破 1924
澤田謙

大同洋行出版部
から食堂部
メッチェンに



ルイ・パストール / 佐藤俊三編
出版者 札幌 札幌堂書房
出版年 東京 大同洋行書籍部
大きさ 1923 160p、図版3
別冊名 ST:Louis
P a s t e u r
一般注記
ルイ・パストールの肖像あり
附録: パストール誕生百年記念會:
著者 佐藤俊三、ヘサトウ、トシゾウ

一月十五日正次郎歿す(享年六十三歳) 東京府赤坂区青山六丁目五〇番地 労働内閣まで 澤田謙 大同洋行出版部函背破 1924

村松重雄(重雄の長男)生まれ 一月十二日
村松映子(重雄の次女)生まれ 八月富士山測候所開設

レストラン・メッチェン大同洋行のあとに閉店した。
神田神保町開業メッチェンの玄関ガラス扉 国宝クラスの職人技によるカットガラス



三月金庫回収で寺の鐘、若尾逸平の銅像献納。
十月五日女子労働挺身隊結成。
十一月五日女子労働挺身隊結成。
十一月五日女子労働挺身隊結成。
十一月五日女子労働挺身隊結成。

三月一日甲府商業などで生徒募集停止。二十四日酒石酸生産のためブドウの生食禁止。中等学校生徒徒農出動。
八月二十六日珠開児童第一陣入隊。
全製糸工場を日本製糸製造株式会社に吸収。

一月富士川でプロペラ船就航。
四月十五日中巨摩郡西部農民組合連合会結成。
十月十六日県議選で初の農民組合候補落選。

一月十五日正次郎歿す(享年六十三歳) 東京府赤坂区青山六丁目五〇番地 労働内閣まで 澤田謙 大同洋行出版部函背破 1924

一月二十七日馬車鉄道線を甲府電車軌道に譲渡。地方病予防撲滅期成組合結成。一日県内で女性小学校校長三名誕生。十五日県営八ヶ岳牧場開設。
七月五日山梨県立工業学校設立(現山梨大学工学部)。
十一月二十八日小宮山清三、采吟上人の研究。
甲府にフリーヤ百貨店開設。

四月一日中央線新宿ー甲府間電化。
五月五日北九州第一次武装移民出陣。
六月二十一日飯田蛇笏「山嵐集」刊行。
七月一日第十、若尾銀行合併。
七月二十六日県警部に特高課新設。

五月一日山梨電気鉄道(現に山梨電気鉄道)着工。
四月二十三日富士山麓電気完成。
四月二十三日富士山麓電気完成。
四月二十三日富士山麓電気完成。
四月二十三日富士山麓電気完成。

一月平地の自動車は木炭車に替え。
三月四日山梨農芸学会(現、山梨郷土研究会)結成。
八月山梨郷土研究会(現、山梨郷土研究会)結成。
八月山梨郷土研究会(現、山梨郷土研究会)結成。

五月アッツ島守備隊全滅。
五月アッツ島守備隊全滅。
五月アッツ島守備隊全滅。
五月アッツ島守備隊全滅。

九月関東大震災
小作調整法公布。
九月関東大震災

四月治安維持法公布
五月普通選挙法公布
四月治安維持法公布
五月普通選挙法公布

三月満州国建国
五月一五事件
三月満州国建国
五月一五事件

十一月金解禁
世界恐慌始まる
十一月金解禁
世界恐慌始まる

九月満州事変起こる
十二月金輸出再禁止
九月満州事変起こる
十二月金輸出再禁止

日中戦争始まる
三国防共協定締結
日中戦争始まる
三国防共協定締結

五月ノモンハン事件
第二次世界大戦勃発
五月ノモンハン事件
第二次世界大戦勃発



埴原正直(1876-1934) 元全権駐米大使
村松重雄出席(前列右から2番目)

二月第一回普通選挙
六月治安維持法改正
全国に特高警察設置された。

北里柴三郎(1876-1934) 元全権駐米大使
村松重雄出席(前列右から2番目)

日中戦争始まる
三国防共協定締結

五月ノモンハン事件
第二次世界大戦勃発

平成十九年 平成二十年 平成二十一年 平成二十二年 平成二十三年 平成二十四年 平成二十五年 平成二十六年 平成二十七年 平成二十八年 平成二十九年 平成三十年 平成三十一年 平成三十二年

2007 2008 2009 2010 2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020

時のふるさと ～桃園・村松家姉妹たちとの出会いより～

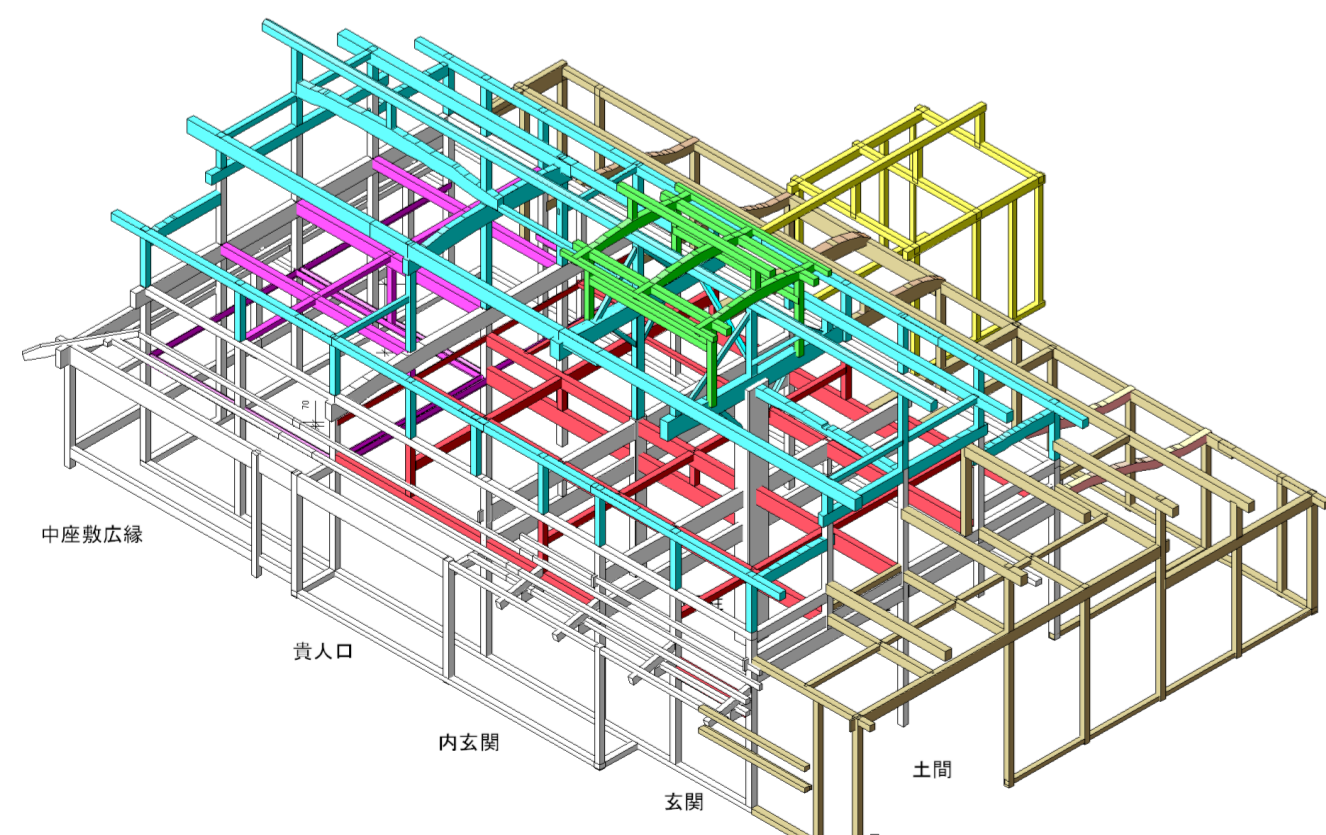
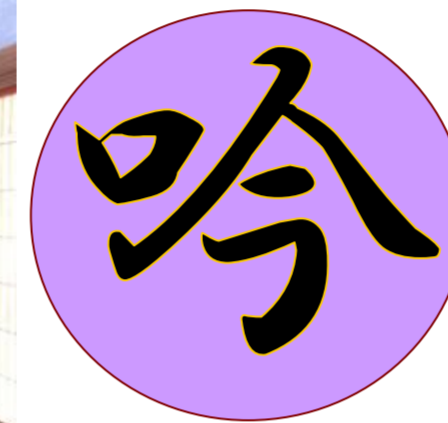


『桃園の家は私のふるさと
父母の記憶の蔵、だから遺したい。』

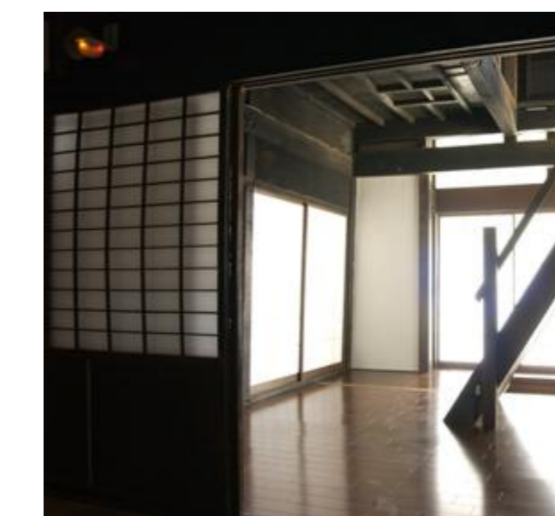
私の帰るところ。
私の今を創ってくれたところ。
私を送り出してくれた家。
私を育ててくれた道具たち。
私の強い意志を育んでくれたところ。
私を自立できるように・・・
私の生活の思い出。

この家は人がいっぱい出入りしていた・・・
ポロ電は横に揺れながら走っていた。
桃園停車場と私の家
実家のお風呂は懐かしい・・・
湯気の奥、窓のステンドグラスに見入っていた・・・
『私は今ここにいるのだけれど・・・
ふるさとは遥か遠く、時のかなたに・・・私の思い出の中に・・・』

いまこのふるさとに立つ・・・



- 結核部 (小塚実・梁) 『慶応元年十月・1856年』、大黒柱棟札起以降
- 2階増築部 (柱・梁) 『慶応元年十月・1856年』、大黒柱棟札起以降
- 1階増築部 (梁・柱・梁) 『慶応元年十月・1856年』以前、大黒柱棟札起
- 1階増築部 (梁・柱・梁) 『明治六年五月五日・1873年』以前、大黒柱棟札起
- 1階増築部 (梁・柱・梁) 『明治六年五月五日・1873年』商家蔵建築以後
- 1階増築部 (梁・柱・梁) 『明治六年五月五日・1873年』商家蔵建築以後
- 1階増築部 (梁・柱・梁) 『明治六年五月五日・1873年』商家蔵建築以後
- 1階増築部 (梁・柱・梁) 『明治六年五月五日・1873年』商家蔵建築以後

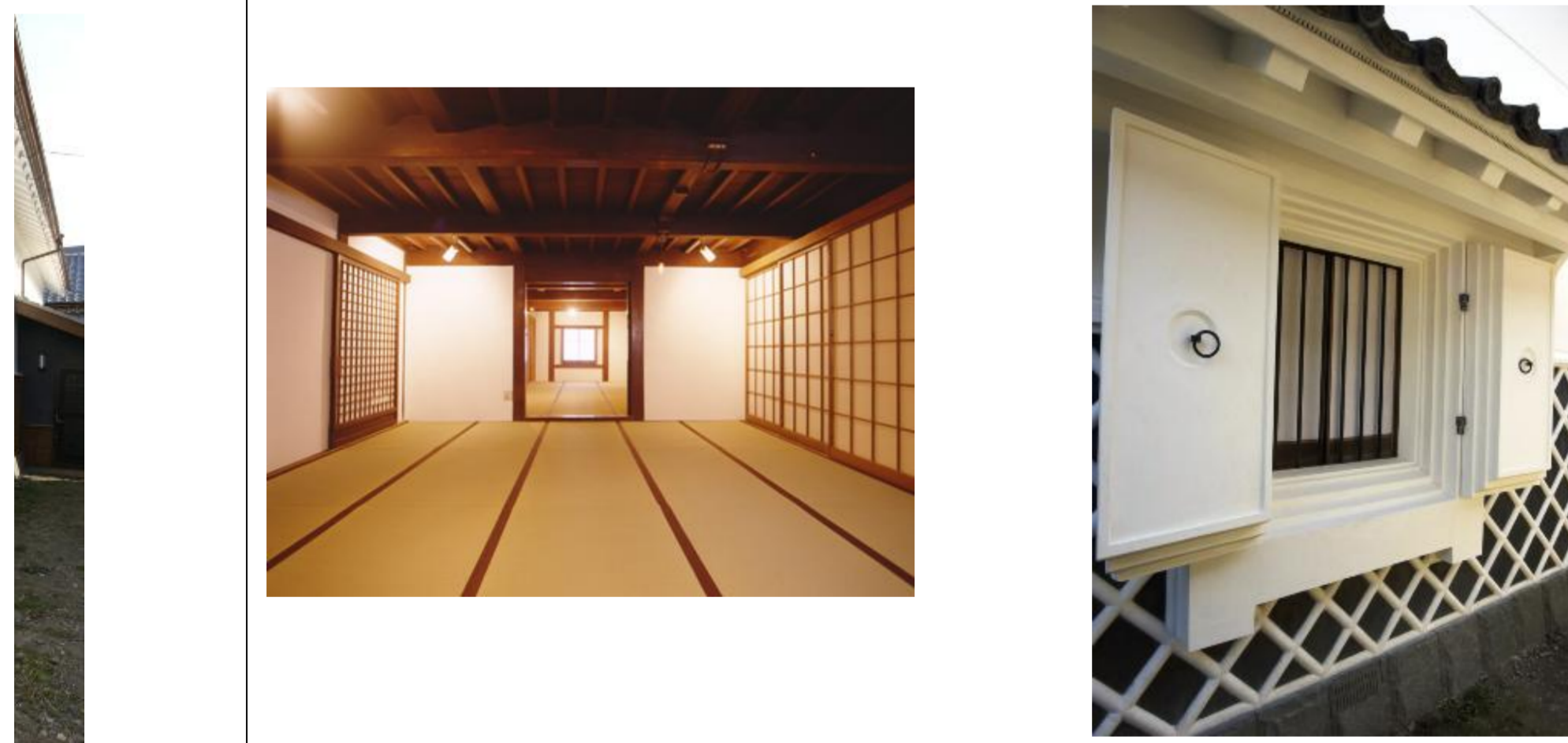


ニンベングチ 佃



保存修理後の村松家住宅

写真撮影 標 克明



参考文献

中巨摩郡誌、櫛形町誌、櫛形町誌史資料編、西南戦争、「臨床応用現北日誌」甲斐の道づくり・富士川の治水、築蔵人間史、日本の美術NO131、左官教室、くすり歳時記、木造建築伝統技法辞典、伝統のテイテール(彰國社)、左官礼賛、図鑑瓦屋根、甲州風土記、書院造(太田博太郎)文化財講座4.5、近世近代、建用語便覧、山梨の百年、山梨県史文化財編・資料編18、建築金物(INAX)、日本近代塗装史、塗料及塗装法(清水正雄著)、日本近代建築塗装史、匠明、日本民家語彙集、山梨県の百年(有泉貞夫著)、開国150年明治かがやく(別冊太陽)、庭木と緑化樹1・2、土壁・左官の仕事と技術、「甲州儒医列伝」(村松学佑)「峡中自由諸名士略伝」(長坂啓三)「山梨繁昌明細記」(佐野広乃一郷土史)「かがやく人々第4集」(酒井常春)「山梨県自由民権運動における佐野広乃関係文書(1)~(4)」(『甲斐路』NO16.17.18.22連載、酒井常春)「やまなし明治の墓標」(有泉貞夫)「山梨の近代」(有泉貞夫)「山梨県の歴史」(徳貝正義、飯田文弥・山川出版社)「江戸時代人づくり風土記」(農文協)「山梨百科事典」(山梨日日新聞社)「谷千城のみた明治」(高知市立自由民権博物館)「古本神田神保町ガイド」(毎日新聞社)「近代日本の軌跡9都市と民衆」(吉川弘文堂)「昭和の歴史1昭和への胎動・大正デモクラシーの開始と挫折」(金原左門・小学館)「昭和の歴史2昭和の恐慌・大不況と忍びよるファシズム」(中村政則・小学館)「昭和キャッスル秘史」(福富太郎・文春文庫)「一億人の昭和史1満州事変前後」(一億人の昭和史11昭和への道程」(毎日新聞社)、山梨の洋風建築、甲斐史料集成、図説山梨の歴史(7)、面報近代百年史、日本の民家調査報告集成・山梨、日本被害地震総覧「4.16」、山梨の草葺民家、日本近代建築の歴史、日本の近代建築(上)(下)、山梨近代史論集、近世甲斐産業経済史の研究、擬洋風建築「日本の美術466」、山梨郷土史研究、「旧富岡敬明家住宅保存修理調査及び基本設計(基本計画)報告書2001、INAX 窯のある広場・資料館、平成15.16.17年度村松家住宅主屋・商家蔵保存修理事業設計監理報告書、「村松家所蔵品、蔵書」